

補助金評価シート

区分	重点・重点以外	補助根拠	法令補助・その他補助	開始時期	令和4年4月1日	終期	令和7年3月31日
補助事業名 [下段に制度概要を記載]		新潟市民芸術文化会館文化事業補助金（人件費） 市民の芸術文化活動の振興を図るため、質の高い多様な文化芸術の鑑賞機会の提供に関する事業、人材の育成に関する事業、舞台芸術の創造と発信に関する事業等に従事する、本会館の事業企画部職員25名の人件費を対象に補助を行う。					
款・項・目		総務費・総務管理費・文化振興費					
所属等		文化スポーツ部 文化政策課 管理チーム 電話025-226-2560					

年 度		令和4年度（1年目）		令和5年度（2年目）		令和6年度（3年目）	
予算額等の推移	予算(千円)	147,660		141,804		140,244	
	決算(千円)	141,804		131,864		140,244	
補 助 率		100%		100%		100%	
目 標		市民の文化活動の活性化を図るとともに、文化発信の拠点化を進めることにより、都市の魅力向上を図る。 ＜目標が数値でない場合の評価方法＞ 市民の芸術文化の創造活動を支援・助成し、本市の発展に寄与しているかを総合的に評価する。					
目標に対する達成度（指標）	達成率100%以上						
	達成率 80%以上						
	達成率 50%以上						
	達成率 50%未満						
	目標が非数値化 ※取扱基準に記載した評価手法に基づく達成度について記入してください	拠点施設として専門性の高いスタッフの経験・技術を提供し、アーティストなどとともに質の高い文化芸術活動を創造・発信するとともに、舞台芸術を担う子ども、若者の育成や市民の文化芸術活動の活性化を支援する事業を実施し、コロナ禍においても工夫しながら本市の文化振興及び魅力向上に寄与した。 (参考実績) 主催公演数 316公演 ワークショップ・アウトリーチ回数 117回 総入館者数 245,316人		拠点施設として専門性の高いスタッフの経験・技術を提供し、アーティストなどとともに質の高い文化芸術活動を創造・発信するとともに、舞台芸術を担う子ども、若者の育成や市民の文化芸術活動の活性化を支援する事業を実施し、本市の文化振興及び魅力向上に寄与した。 (参考実績) 主催公演数 347公演 ワークショップ・アウトリーチ回数 121回 総入館者数 271,362人		拠点施設として専門性の高いスタッフの経験・技術を提供し、アーティストなどとともに質の高い文化芸術活動を創造・発信するとともに、舞台芸術を担う子ども、若者の育成や市民の文化芸術活動の活性化を支援する事業を実施し、本市の文化振興及び魅力向上に寄与した。 (参考実績) R7.2末時点 主催公演数 190公演 ワークショップ・アウトリーチ回数 117回 総入館者数 267,639人	
補助事業者による情報の公表		(公財)新潟市芸術文化振興財団ホームページ					

評価欄	チェック	a. 補助対象経費は事業の直接経費となっているか	○	e. 指標の推移が維持・向上しているか	○
		b. 補助率は1／2以内か	×	f. 補助事業者による情報の公表は適正に行われているか	○
		c. 補助額が5万円以上になっているか	○	g. 目標は数値化されているか	×
		d. 収入が過充当になっていないか(繰越金が生じていないか)	○	h. 目標は補助金の成果を検証しやすい設定か	○
	×になった項目に対する今後の取組	<a～fにおける取組> b:本会館を市の文化施策を進める上での拠点施設と位置付けており、特に専門的な文化事業に従事する人材の雇用や育成については長期的な視点に立って計画・実行していく必要があるため、1/2以上の補助はやむを得ないと考える。 <g～hにおける取組> g:文化事業の公演数や入館者等は、社会情勢や館全体の企画構成に応じて変動する性質があり、文化活動の振興を数値実績のみでは測れない側面があることから、本補助金の目標を数値化することは困難であると考え。			
目標未達成の原因分析	<期間（3年）を通して目標達成率80%未満の場合、なぜ達成できなかったか>				
① 拡充 ・ 改善（ 補助率、補助額、補助対象経費、その他 ） ② 継続 ③ 廃止					
①～③の評価理由 ※目標未達成の原因分析に該当の場合はその要因を踏まえて今後どうするのかを記載すること 質の高い芸術文化に触れる機会の提供、人材育成など、本市の文化振興に大いに寄与している事業の実施を継続するためには人員確保が必要であり、継続すべきと考える。					